

皆さんの声をお聞きします

町長との懇談の日

イベントのシャトルバス

町のイベントで応急仮設住宅と会場とのシャトルバスを出すと、町民でない人もバスに乗れるか。

町のイベントでシャトルバスを出す場合、町民に限らず広く参加者を募る催し物が多いので、町民でない人もバスを利用できます。

職員の電話対応

役場に電話すると、所属(課名)や名前を名乗らない職員がいる。

電話の対応は非常に大事です。で、次回の課長等会議で指摘いただいたことを全課長に伝え、直すよう徹底します(6月16日開催の課長等会議で、電話を受けたときは課名と名前を必ず名乗るように、指示しました)。

6月開催分から、皆さんの生活に直接関わる項目などを抜粋して掲載します。

復興事業の通過車両

国道6号線をダンプトラックなど重車両が多く通るので、生活に支障をきたしている。重車両の通行をなるべく高速道路に振り替えられないか。

常磐自動車道が全線開通したこともあって、町としても復興目的で走行する車両は、できるだけ高速道路の利用をお願いしています。一例として、除染廃棄物の仮置き場から中間貯蔵施設予定地への試験輸送が始まっていますが、常磐自動車道を経由するルートを選択してもらっています。

これまでの参加者数など

回数	開催日	組数	人数
1	2月	6組	7人
2	3月	4組	5人
3	4月	4組	5人
4	5月	2組	5人
5	6月	3組	3人
6	7月	3組	3人

今後の日程など

- 日時 8月10日(月) 午後2時~4時
- 時間 1人(1団体)約20分間(先着順)
- 場所 広野町役場 2階 応接室
- 対象 広野町民

申し込み方法 実施日の2日前までに下の問い合わせ先に電話してください。

*開催日時は予定であり、町長の公務の都合によって開催日や時間帯を変更することがあります。変更があった場合、申し込みをした人には電話でお伝えしますので、皆様のご理解とご協力をお願いします。

総務課 秘書広報係 ☎0240-27-2111



広野町職員(高校卒程度)を募集しています

採用予定日 平成28年4月1日 ■職種・採用予定人員 一般事務 1人程度 土木 1人程度 ■受験資格 平成6年4月2日から平成10年4月1日までに生まれた人。学歴不問。(欠格事由は募集要項で確認のこと) ■試験方法: 第1次試験は①教養試験(筆記)、②専門試験(筆記。土木のみ)と③事務適性検査、一般性格診断検査、職場適応性検査、第2次試験は個別面接と作文 ■第1次試験の日時・場所: 平成27年9月20日(日) / 杉妻会館(福島市杉妻町3番45号) ■申し込み方法: 申込書を平成27年8月14日(金)までに郵送(8月14日午後5時までに受領したもの)または直接(開庁日時内)広野町総務課庶務係(〒979-0402 福島県双葉郡広野町大字下北迫字苗代替35番地 ☎0240-27-2111)へ。試験要項と申込書は本町総務課が郵送請求(120円切手をはった返信用封筒(角型2号)同封)で入手可能。
問 総務課 庶務係 ☎0240-27-2111

ぜひ私たちと一緒に復興の仕事を!

福社介護課(保育所・保育士) **ひるかわ 結末** (平成27年度採用)

私は隣の檜葉町出身です。東日本大震災が発生したときは高校1年生で、剣道部の練習に送ってもらった車の中で最初の地震が起きました。短期大学を卒業したら地元で就職したいと思っていたので、母の実家がある土地勘がある広野町の採用試験を受けました。採用されたとき、町民である祖父母がとても喜んでくれました。



面接でなるべく小さい子どもの保育をしたいと希望したところ、保育所、それも1歳児クラスの受け持ちに配属されました。1歳児に分かりやすく伝えることはとても難しく大変ですが、天使のような笑顔や寝顔を見ていると癒されますし、「先生」と呼ばれるのはうれしいです。

町の職員として、広野町民に負けたくないくらい広野町のことを知りたいと思っていますので、これから採用試験を受ける人たちにも、それを望みます。

町民保健課(保健センター・保健師) **くろだ かおり 香織** (平成27年度採用)

私は浪江町の出身で、震災発生は県外の大学3年生のときでした。古里に対する思いは、震災をきっかけに変わりました。浜通りの役に立ちたくて、南相馬市の病院に看護師として勤めました。病院勤務は充実していましたが、在宅の高齢者のことが気になりました。平成26年の暮れに結婚し、嫁ぎ先の広野町が年度末に保健師を募集したため、応募して採用されました。



保健師になってみて、疾病予防の仕事は臨床と比べてある意味難しいと感じています。病人相手ではないので、ここまでやるべきという答えがないからです。放射線に対する不安をお聞きするなど、マニュアルにない対応が求められます。

町には高校が開校し、ショッピングセンターなどもできるので、震災前よりもいいところになると期待しています。

学校教育課(学芸員) **ねもと たまき 根本 環** (平成26年度採用)

私は広野町の出身です。東日本大震災が発生したときは、首都圏の大学4年生でした。卒業したときは就職難で、アルバイトをしながら専門学校に通って、医療事務の仕事に就きました。できれば学芸員になりたいと、就職してから求人情報を気にしていましたが、特殊な職種なので、めったに募集はありません。幸運にも、復興事業に伴う埋蔵文化財調査が急増した広野町が学芸員を募集し、平成26年11月、生まれ育った町の学芸員に採用されました。



今年6月、私が初めて発掘調査を手掛けた遺跡の現地説明会を開きました。緊張しましたが、調べたことを分かりやすく説明するのも学芸員の仕事なので、達成感がありました。私が町で唯一の学芸員であり、任せてもらっているという実感があるので、とてもやりがいを感じています。

学校教育課(幼稚園・教諭) **やまだ ゆうか 山田 優花** (平成27年度採用)

私は広野町の出身で、県外の大学に進学しました。生まれ故郷での就職を望んでいましたが、広野町は卒業時に新卒者採用の募集をしなかったため、町外の幼稚園に勤めました。1年待って、平成27年度採用の職員採用試験に応募して合格し、自分が卒業した広野幼稚園に配属されました。園長は私の先生でもあります。



地元なので園児の家が分かり、保護者も知っている人がいるので、心強いです。教える立場になって、子どもは個性が強く、一人ひとりみんな違うということを改めて実感します。月曜日は、園児がみな休日の出来事を話してくれて、教室がにぎやかです。子どもの笑顔を見られるのが何よりもうれしく、元気をもらえます。大勢の子どもたちが元気よく遊んでいることをPRして、避難している人たちが、戻ってきてくれるような町にしていきたいです。